

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500198		
法人名	株式会社 ほんじょう会		
事業所名	みどりの郷 ほんじょう		
所在地	大分県佐伯市本匠大字笠掛1589番地1		
自己評価作成日	令和3年3月25日	評価結果市町村受理日	令和3年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500198-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	令和3年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほんじょう」という地域性を活かし、季節ごとの自然を肌で感じていただいている。ただ、昨年来のコロナ渦中、地域の方々との交流がままならず外出の機会も大きく制約され、敷地庭園での散歩程度が外出を楽しむ機会となっていることが当法人の特色を大きく損ねてしまう結果を招いていると痛感している。そうめん流しも夏まつりも中止を余儀なくされ、家族との楽しみな『アウトドア』もできず、家族交流の機械も提供できていない。代替として、職員は館内又は庭園でのレクリエーション等を取り入れ室内や居室で座った状況が続かないよう、入居者の気分転換の環境づくりに腐心しているところだ。また、大切なご家族をお預かりしているものであり、日常の報告を頻繁に行うことで家族との信頼関係を築くことに努めている。職員の入居者への対応については、敬意を持って誠意ある姿勢で、コロナ渦中でも窮屈感のないよう支援や援護を行っていけるよう工夫することが現在状況での課題である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐伯市の西側に位置する本匠地区にある「みどりの郷 ほんじょう」様は、四方を山に囲まれ農業や林業を営む自然環境に恵まれ、利用者の安全・安心を第一に健康を維持し、利用者一人ひとりのペースを尊重しながら、ゆっくりした時間の中で生活を楽しんでいます。利用者の楽しみである食に力を入れ、季節の食材で食事を提供し、自然に体の動きを促す支援がなされています。家族や地域との交流は、家族会への全家族の参加、避難訓練への地域の消防団・住民の参加があり、現在新型コロナウイルス対策で家族や知人・ボランティアの面会が制限された対策が続いていますが、利用者のストレスが溜らない運営に心がけ、職員の研修など積極的に取り組みがなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は作成して朝礼時に唱和を行っているが勤務シフトの都合上もあり、職員全員が必ずしも共有、浸透しているとはいえない。	理念について、特別に会議で話すことは少ないですが、毎日交代時における唱和の中で意識され、常に支援の中で反映されています。また職員採用の際も理念に基づいた説明をされ、理解出来る取り組みがなされています。	コロナ禍に於いて、施設の方向性、ケアの中心となる理念の設定について、見直し・改正に取り組まれ、利用者が負担・ストレスの残らないよう期待します
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでのような施設内外での近所の方々との交流や中学生の職場体験、ボランティアの受け入れなど地域との交流がコロナ禍でほぼできていない。	地域・ボランティアとの交流事業は、時節柄厳しいものがありますが、単独的に近所の人が立ち寄り、地域で創られたものを差入れるなど交流が保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	集会等の自肅要請に呼応したことで「ほんじょうカフェ」を軸とした交流を図れていない。また夏祭りなどの法人の企画もできず、地域貢献の機会が損なわれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や委員の参加に制約もあるが施設内での様子や感染症対策の取組み、運営方針等について説明し、その場での意見をサービス向上に繋げるようにしている。	コロナ禍であります施設内で5回・書類送付で1回、推進会議に取り組まれ、地域密着型サービスの社会的役割に基づいた双方向による意見交換がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本匠地区担当の包括支援センター担当者に運営推進会議に参加いただき、情報交換している。佐伯市福祉事務所生保担当者に対して、当該入居者の受診状況や利用の様子などを定期的に報告し関係構築を図っている。	介護保険法・生活保護法・社会福祉法等、法律の改正の時や介護認定更新など定期的に情報交換を行い、利用者のニーズや状態の変化時なども報告・対応への協議がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止、身体拘束廃止委員会での活動を軸に「禁止の対象となる行為」を資料としてまとめ、職員全員が把握するよう努めている。いつの間にかの外出が複数回あり、玄関施錠はまだ開放できずにいる。	毎月1回、委員会で拘束に対する弊害・自尊心の侵害を起こさないよう、取り組みがなされ、重度化に伴い、徘徊等で外出を頻繁に行う方もおられますが、その都度職員が丁寧に一緒に外出の補助をするなど、拘束しないケアに取り組みがなされています	利用者の心理的負担となる、スピーチロック等についても積極的な研修・対応を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束廃止委員会の活動門活発化し、月に1~2回程度のカンファレンスを実施している。各居室担当者が虐待防止チェック表に合わせて評価する仕組みとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者で制度活用者はいないが、制度理解のための学習の場は法人グループ全体の合同学習会である「人権研修会」定期的な研修を行い参加、啓発を図っている。職員の共通意識のレベルアップを図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は入居契約の際には十分に説明を行い、承諾を得、その内容に対する理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で入居家族や運営推進委員の意見や要望などを伺っている。モニタリング時に本人やご家族の意見を反映できるよう努めている。家族には行事等に参加していただき、日常の様子が見える機会を設けている。	意見箱の設置・家族会や運動会等で、意見が出やすい環境づくりや推進会議での意見収集に取り組み、意見・要望が発生の時は職員全員で対応がなされ、また施設以外にも、介護保険係、国保連などに意見を云えることを説明されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月に一度のカンファレンスの機会を設定し、その中で意見交換し、改善していく箇所を見直し実践に努めている。	支援の中で職員の気づき、アイデアを運営の中に取り入れ、利用者の安全に配慮したケアがなされ、勉強会・個別相談も計画的に行われる環境づくりがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	固定給への変更や、資格取得を奨励支援し資格手当の付与、業績など総合的な評価に応じての昇給、介護職員処遇改善給付等、所得の向上を図ることで就業意欲を高め、上位資格取得などそれぞれの目標達成をサポートしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況は実際に現場を見る、又は管理者より報告を受け把握に努めているが研修への参加の機会が損なわれており、動画や映画など映像を活用した合同学習会や研修会（虐待防止、拘束廃止等）で代替を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ入居系通所系の事業所との交流の機会も制限していることもあり、同業他事業所も含め事業所間の交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談に出向きアセスメントを実施、不安なことや要望の聞き取りを行う。生活歴を把握し安心して生活を営んでいただけるようご本人を理解し、良い関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人から窺うことのできなかった不安や要望を聞き取り、対応手段を協議してサービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学をしていただき、入居予定者の要望に添える環境なのかをケアマネジャーやご家族と協議するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のADL状況に照らし、配膳下膳、茶碗洗い片付け、掃除、洗濯もの畳等ホーム内での自立へ向けた支援を実践しているが、入居者それぞれに差があり、入居者同士の関係構築にはほど遠い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦中であり面会ができない状況下、日常の様子を伝えるなどすることで家族との良好な関係が築けるよう努めている。特に医療支援については受診状況報告書を提供し安心できる状況を作るように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	様々な地域からの入居者や身体的認知的に重度化が進んでおり、関係維持が困難になる場面に遭遇することが増えている。	入所時のアセスメントで、本人を取り巻く人間関係を把握し、馴染みの人と継続・連絡できる体制が構築され、電話や手紙(年賀状等)で交流がなされています。担当者を決めるなど利用者がパニックにならないよう利用者本位のケアがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や思いを把握し孤立しないような配席を心掛けている。常に観察を怠らず不穏な空気を感じた場合は、不信任や不安感が増悪しないよう支援に腐心している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系グループ施設への転居の場合は継続した支援を行うための介護で共有を図るなどしている。その他の方々に関してても担当ケアマネジャーの要請等相談や支援方法について協議することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や声かけ、観察を行い意向をくみ取れるよう面談している。意思疎通が困難な場合は電話等による意向を聞き取り、家族の意見把握に努めている。	家族や親族からの情報や、笑う・泣く・怒る・嫌がるなど本人が言葉などで、伝えられないことを表情からくみ取り、暮らし方や意向の把握に努めるなど、本人本位の支援に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や趣味などの聞き取りをし、ニーズの把握を行い、適したサービスが提供できているか経過観察もしているが、把握ができていないとは言い難い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別支援記録や業務日誌、申送り等で日々の状況把握を行っている。見直し、問題等があればカンファレンス会議で協議し改善するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を軸に必要時等担当者会議を開催し、現状報告、課題について話し合い、必要と思われる支援内容の変更現状にあった計画書の作成を行っているが、時節、内包的になっている感は否めない。	家族に電話で確認し、特に新規の利用者には情報を提供して頂き、本人本位の計画がなされ、また状態に変化があった時は、認定更新期限が来る前に、モニタリング等を開き、見直すなど状況に応じた対応がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や記録は細かく記載しており、日常の記録やカンファレンス、申送りなどで情報共有し、気づきに対する対応策を日々検討しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にニーズに対する対応は難しい面がある。特にコロナ渦中、外出の機会が著しく損なわれており外部との触れ合いは皆無に近い。今こそ多機能的に支援を行うことが求められていると痛感する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほぼ、皆無に近い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はしないようにしている。病院施設間で適切な情報交換をすることで緊急時の対応がスムーズに行えるようにしている。訪問診療を積極的に取り入れ、変化に対応する体制を敷いている。	利用者の主治医と常に情報を共有しています。コロナ禍の中、状況の変化にも医療機関との連携を常に図りながら柔軟な対応で支援されています。また、家族への連絡は電話連絡で報告されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師は夜勤にも対応して介護支援の中で気づきや変化についてこまめな報告を受けており、医療連携非常勤看護師とともに適切な判断ができるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会が制約的になっているが、連携室との共有を図り入院時の現状把握、回復状況の確認に努めている。退院時は入院中の情報を聞き即応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	避けて通れない見取りへの覚悟をもって身心の状態変化を早期に発見し、ご本人に合った支援を行えるようにしている。現状での対応が困難な場合はご家族と転居も含めた話し合いを行い対応に努めている。	入所時に施設として出来る事の説明をされています。利用者の変化に応じて、家族・主治医・施設と話し合いを重ねながら、その人らしい終末期を迎えられよう、本人・家族・医療機関・施設と常に確認しながら支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内学習会による技術的なスキルアップを図るとともに、今期は反復復命する機会を法人単位で実施する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回実施する計画だ。当期は6~7初の実施に向けて計画を進めることとする。今回は土砂災害を想定した訓練として取り組み、自歩行できない入居者の避難のあり方などを確認したい。	定期的に、様々な災害を想定された訓練をされています。訓練は消防署の協力を得ながら実施されていますが、コロナ禍の中、地域の方の参加は難しい状況にあります。実際に大雨の時の避難の経験から、反省点を踏まえ訓練に反映されています。	コロナ禍ではありますが、地域の方の協力体制の強化を様々な工夫されながら、取り組まれることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活歴を知ることで人格の尊重を目指しているが、職員全員が把握するまでには至っておらず、時にタメ口になったりもあり、必ずしも適切な言葉かけではないことが見受けられている。	利用者の誇りや尊厳を大切しながら、支援に努めています。職員間で常に意識を高めるための意識付けの工夫や、お互いに意見を言いやすい環境づくりに努めながら、利用者の気持ちにさりげなく寄り添う支援を、大切にされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話をよく聞き、いま何をしてほしいのかを把握できるように努めて、本人の希望がかなえられるように対応しているが、職員による認識理解にまだまだ温度差は否めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	館内生活中心の今、毎日行っているラジオ体操や行事ごとにはなるべく全員が参加できるよう促しているが強制はしていない。生活家事への参加を促し、個々に合った支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が困難な方に対しては上下のパンツ、動きやすさ、ご本人に合うコーディネートを提案している。散髪は2か月に1回程度で行い、身だしなみに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時に朝食にパン食を取り入れ楽しみにしている入居者様も多い。食事の準備や片付けなども個々の有する能力に合わせて支援することをしている。コロナの影響により外食支援ができないのが残念だ。	食事は、献立から調理まで施設でされ、五感で食事を楽しんでもらっています。栄養や季節の物、また今食べたいもの等を柔軟に取り入れ、出来ることは一緒に手伝ってもらい食事を楽しんでもらうよう様々に工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や水分量をチェックしている。食べやすくカットしたり嫌いなものや禁忌食材がある場合は別のものに変更するなど、彩りに工夫しながら個々に合わせた必要量の提供に努めている。基本、手作りだ。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアができる方には声かけし、磨き残しがないか確認している。要介助の方は職員の支援の下、個々に合った口腔ケアを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室やホール内で放尿する入居者が複数おいでになり困惑しているが、個々の排泄パターンの把握を行い、声掛け排せつ介助を実施している。できる動作はしてもらう個々にしており、可能な限りの自立に向けた取り組みを進めている	職員全員で排泄チェック表をすぐに確認でき、常に利用者の体調やパターンを大切にしながら、支援に繋がっています。また、利用者本人の習慣や自立に向けて、気持ちよく過ごして頂けるよう様々に工夫されながら支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を取り入れ、それを促し自然排便ができるよう支援している。便秘気味の方には医師の指示を仰ぎ、緩下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日勤帯のスタッフが充足したことで入浴は毎日できるようにしている。スタッフ2名介助の必要な方もいるが、一人ひとりに掛ける時間はゆったりとなるよう心掛けている。	利用者の好みや気分を大切にされ、気持ちよく入浴を楽しんでもらえる体制づくりを整えています。お盆や大晦日は大浴場で入浴を楽しんでもらったり、様々に工夫しながら個々に沿った支援に取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠のリズムはさまざまであり、特に入居間もない方は眠りが浅いようであり、不安なく眠れるよう支援している。日中、傾眠傾向にある方にはなるべく覚醒していただくように声かけし作業の提案などもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専任看護師の指示の下、看護師が服薬管理を行っている。ファイルを作成し処方箋等を確認し誤薬のないよう努めている。体調の変化が見られる時は看護師に連絡・相談し、指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活支援をして毎日役割をもち活発に生活している方もいるが、受け身の方も多いため、新聞を読む、雑誌や本を読む、外に散歩に出るなど、その方のその日の体調を校了して支援を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦中、外出に機会がほぼなくなった。せめてのドライブは車中車窓からとなつて、ストレスフルなものとなっている。	自然に恵まれた環境にあり、日常的な近所への散歩は気候や天気、気分や体調を考慮しながら支援されています。季節ごとのドライブは難しいものの、通院等の際に季節を楽しんでもらえるよう現状の中でも出来る事を様々に工夫し、取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との協議の上で所持するか否か決めているが、所持した場合、「どこに隠したか分からない」、「盗られた」など不穏になることも多く大切さの理解や使用については困難となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行えていないが、電話を掛けたりかかったりした場合はスムーズにやり取りできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを工夫し、湿度や室温を調整し入居者が過ごしやすい環境になるよう工夫している。トイレへの誘導も同じ場所にすることで「いつもと同じ」感覚でいられるよう支援している。	清潔感があり、利用者が気持ち良く快適に過ごせるよう、様々に工夫されています。季節感を大切にされ、その時々体調に柔軟に対応しながら、共用空間であってもその人らしい生活が送れるよう寄り添った処遇を常に意識しながら支援されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	協働空間においてソファやイスなどで気の合った入居者同士が談笑できるよう余裕を持って配置し、自由に過ごしていただけるように居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた枕や布団、見慣れたカレンダーなどを持参していただき、落ち着く環境づくりを目指している。時には室内の配置を変えたいと思うが、環境変化を嫌うことから、まだ実施できないでいる。	馴染みの物を持ち込んで頂いたり、居心地よく過ごして頂けるよう、利用者に合わせて居室づくりに取り組まれています。また、体調やその時々気持ちを大切にされ、安全・安心に過ごせるよう常に工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族同意の下で名前の表記や分かりづらい部分は文字を大きくするなどの工夫をしていて、自分の部屋との認識づくりを誘導している。トイレも分かりやすく表示し自分の意思で行動してもらえるよう工夫している。		